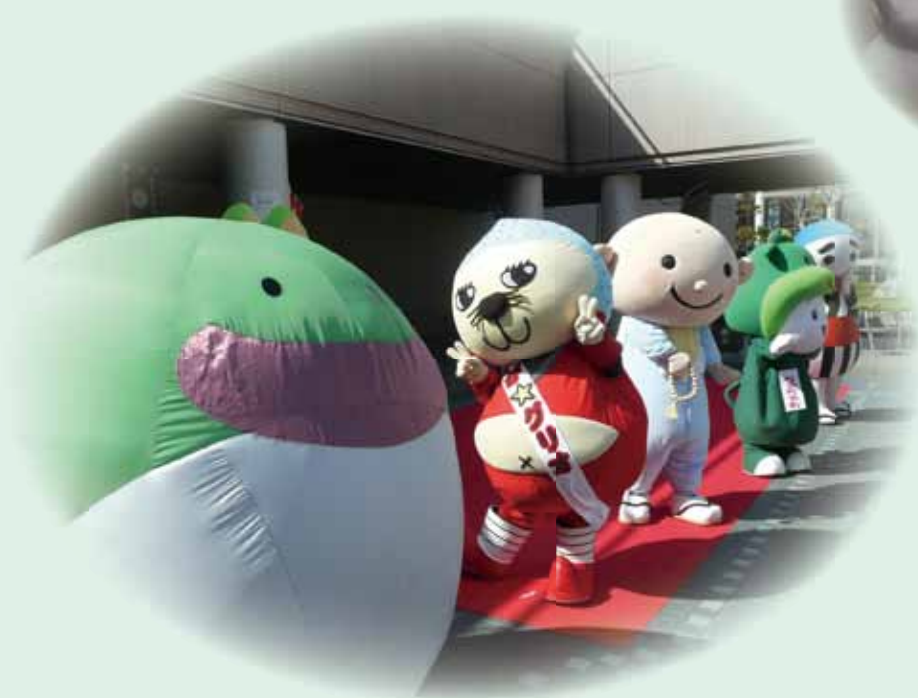


平成22年（2010年）度版
ごみゼロレポート

～みんなでめざそう “ごみゼロ社会”～



ごみゼロ社会実現プラン	p.1
三重県のごみの現状	p.3
平成21年（2009年）度の取組 （ごみゼロ社会実現プラン推進モデル事業）	p.5
平成21年（2009年）度の取組 （県として主に取り組んだこと）	p.13
ゼロ吉くんレポート	p.19

平成23年（2011年）1月
三重県

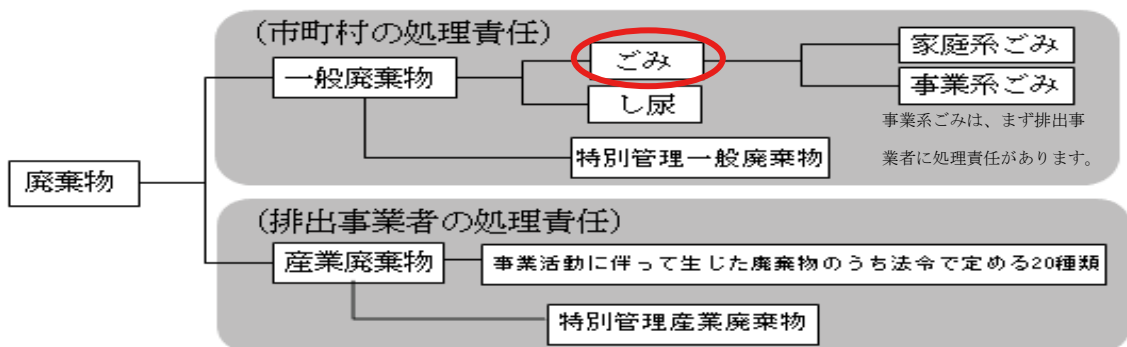
🌱「ごみゼロ社会実現プラン」とは？

持続可能な資源循環型社会の構築という大きな目標に向けて、住民、事業者、行政など多様な主体が共有すべき取組の指針であり、長期的な展望のもとに参画・協働していくためのプランです。県民のみなさんの参画のもと2005年（平成17年）3月に策定しました。

🟢「ごみゼロ社会」とは？

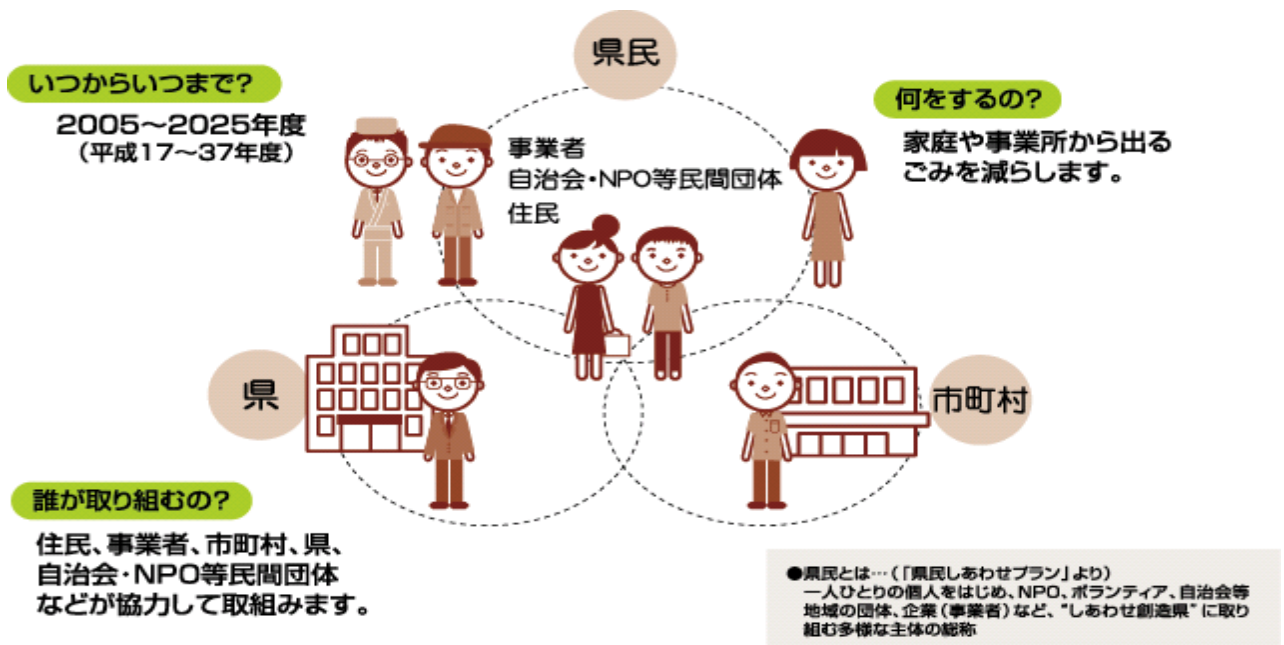
“「ごみを出さない生活様式」や「ごみが出にくい事業活動」が定着し、ごみの発生・排出が極力抑制され、排出された不用物は最大限資源として有効利用される社会”のことで

🟢 ごみとは？

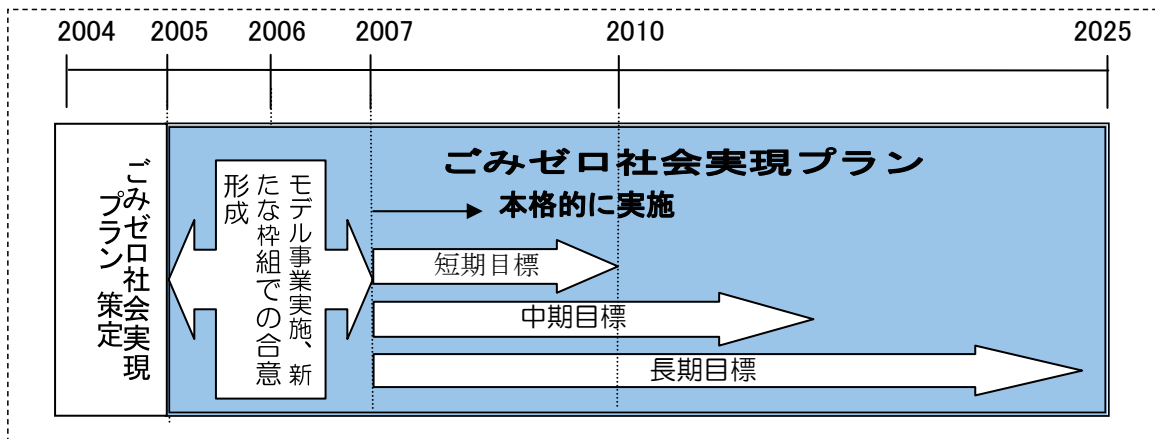


🟢 推進体制のイメージ

住民や事業者、行政、民間団体等がそれぞれの役割を認識したうえで、自主的にごみの減量化・再資源化に向けた取組を進めます。また、各主体の連携協働を促進します。



● ごみゼロ社会実現プランの目標設定



● 短期・中期の目標設定

(1) ごみの減量化

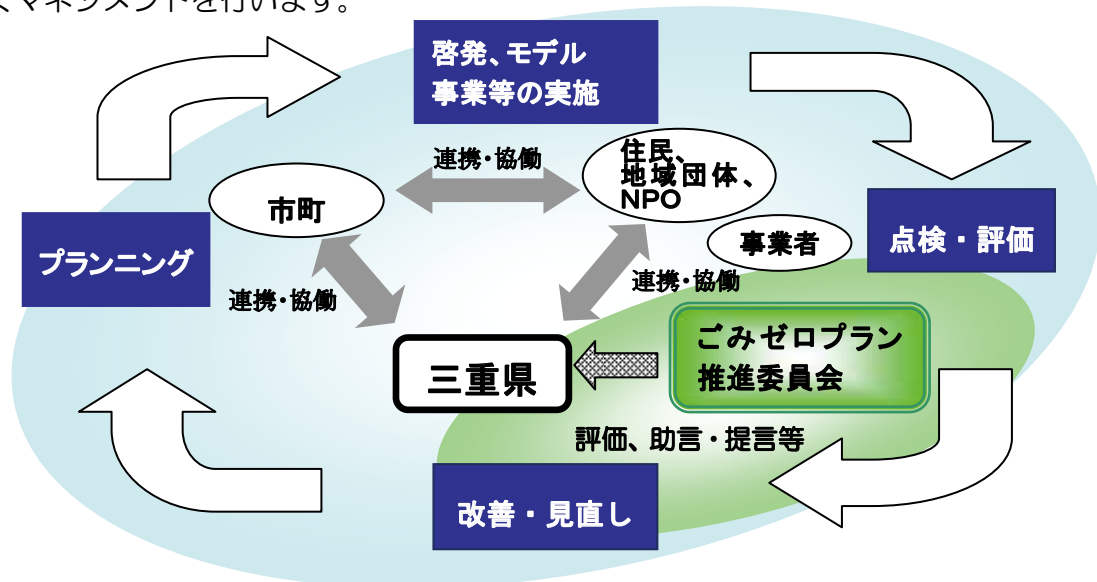
区分	指標名	数値目標		
		短期(2010年度)	中期(2015年度)	目標(2025年度)
①発生・排出抑制に関する目標	ごみ排出量削減率(対2002年度実績)	家庭系ごみ6% 事業系ごみ5%	家庭系ごみ13% 事業系ごみ13%	家庭系ごみ30% 事業系ごみ30%
②資源の有効利用に関する目標	資源としての再利用率	21%	30%	50%
③ごみの適正処分に関する目標	ごみの最終処分量	81,000トン 対2002年度 約46%減	76,000トン 対2002年度 約50%減	0トン

(2) 多様な主体の参画・協働

指標名(H16現状値)	数値目標		
	短期(2010年度)	中期(2015年度)	目標(2025年度)
④ものを大切に長く使おうとする県民の率(58.2%)	80%	90%	100%
⑤環境に配慮した消費行動をとる県民の率(39.4%)	60%	90%	100%
⑥食べ物を粗末にしないよう心がけている県民の率(38.5%)	60%	90%	100%
⑦ごみゼロ社会実現プランの認知率(-)	90%	100%	100%

● プラン推進のマネジメント

県民、事業者、NPO等団体、学識経験者、行政で構成される「ごみゼロプラン推進委員会」を設置し、プラン推進の取組を検証・評価し公表するなど、PDCAサイクルに基づくマネジメントを行います。

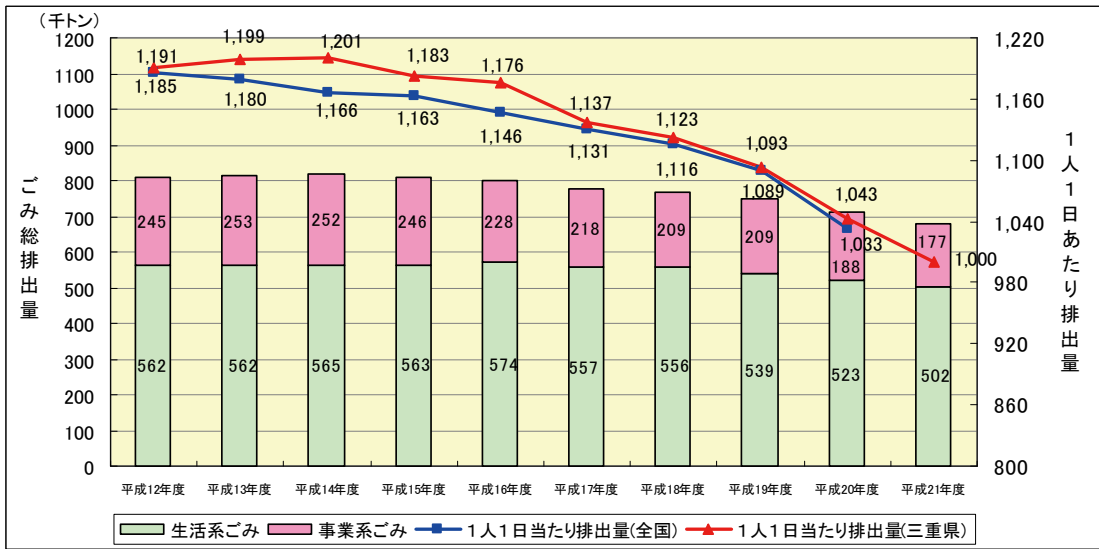


三重県のごみの現状

● ごみの排出量

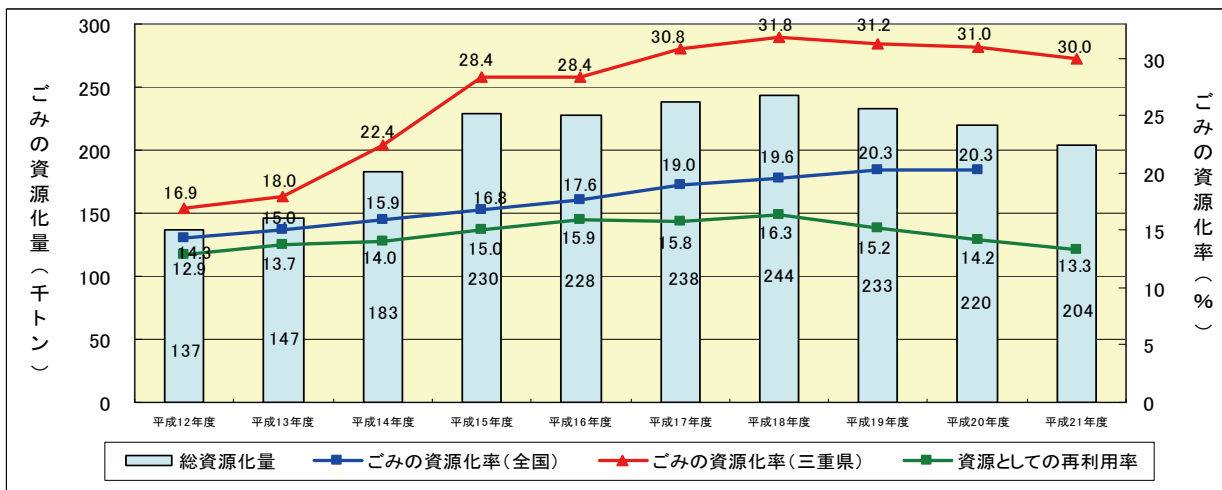
平成21年（2009年）度の速報値では、県内におけるごみ総排出量は、前年度比約4%の減少となっています。そのうち、生活系ごみの排出量は約4%、事業系ごみの排出量は約6%と、いずれも前年度に比べて減少しています。

また、1人1日当たりごみ排出量でも、21年度速報値は1,000gとなり、前年度に比べて、約4%減少しています。ここ数年は国の1人1日当たりごみ排出量との差は縮まっていたが、20年度は少し差が開きました。



● ごみの資源化率

平成21年（2009年）度の速報値では、県内におけるごみの資源化率は30%で、全国でトップクラスとなっていますが、平成19年度からはやや実績値が下がりました。

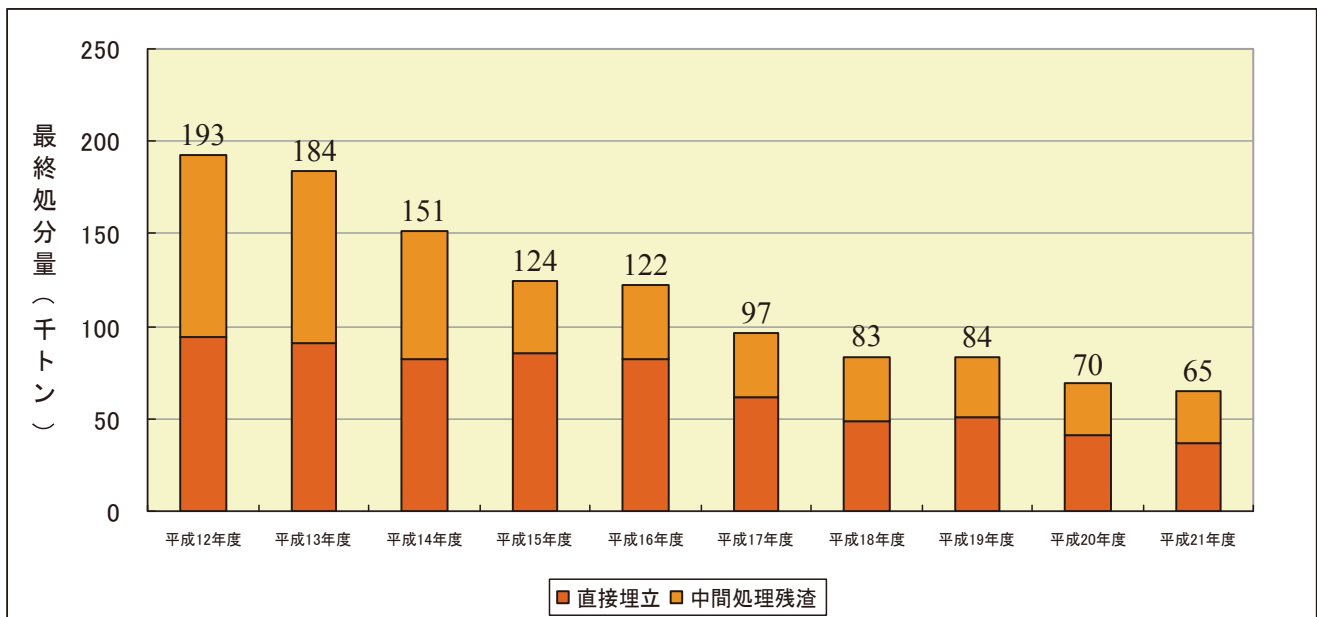


※1 プランの数値目標である「資源としての再利用率」には再使用や再生利用をより重視する観点から、このグラフの「資源化率」には含んでいる①「ごみ固形燃料（RDF）発電施設に供給するためにRDF化した量」、②「焼却施設で生じた焼却灰を溶融化施設でスラグ化した量」③「集団回収量」は含めていません。

※2 この数値については、行政が回収したものを対象としています。

● 最終処分量

平成21年（2009年）度の速報値では、県内における最終処分量は約6万5千トンで、前年度に比べ約7%減少しました。最終処分量は、平成12年度のほぼ1/3に減少しています。

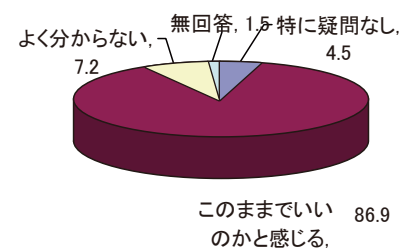


● 県民の意識と行動

県民のごみに関する意識をみると、今の使い捨て社会に対して大多数の人が疑問を感じながらも、実際に環境に配慮した行動をとる人の割合はまだ低く、意識と行動とが必ずしも結びついていない実態があります。

● 使い捨て社会に対する疑問

平成22年度の「ごみゼロ社会」をめざす県民アンケートでは、今日の使い捨て社会に対して「このままでいいのかと疑問を感じる」人の割合が86.9%と最も高く、「特に疑問は感じていない」人は4.5%です。



● プラン数値目標（多様な主体の参画・協働）についての県民意識

	H16	H19	H22
ものを大切に長く使おうとする県民の率	58.2 %	58.3 %	59.4 %
環境に配慮した消費行動をとる県民の率	39.4 %	40.2 %	41.3 %
食べ物を粗末にしないよう心がけている県民の率	38.5 %	40.6 %	47.3 %
ごみゼロ社会実現プランの認知率	—	45.6 %	36.8 %

「ごみゼロ社会実現プラン」の数値目標についての県民の意識は、「ものを大切に長く使おうとする県民の率」「環境に配慮した消費行動をとる県民の率」「食べ物を粗末にしないよう心がけている県民の率」の3つの項目は、平成16年度・19年度に比べて増加していますが、「ごみゼロ社会実現プランの認知率」は減少しています。

平成21年（2009年）度の取組 （ごみゼロ社会実現プラン推進モデル事業）

「ごみゼロ社会実現プラン」のごみ減量化取組をより効果的に、県全体での展開につなげるために、市町が地域住民・事業者・団体等と協働して行う、他の市町・地域の参考となる実験的・先駆的なモデル事業3件に対して、費用を補助するなどの支援を行いました。

鳥羽市「島内における資源循環モデル検討事業」

神島の状況



神島の位置図

神島は、鳥羽港の北東約14kmの伊勢湾口に位置し、定期船で中之郷から約50分です。面積は0.76km²、島の周囲は3.9kmで、島内は標高171mの灯明山を中心に、島全体が山地となっています。

事業の目的と概要

神島でのごみ処理については、可燃ごみ、資源ごみ等は1週間に1回、船で本土にあるごみ処理施設に運搬して処理を行っています。生ごみは以前から島内に設置していた炭化式生ごみ処理機で炭化後、船で運搬し処理していました。

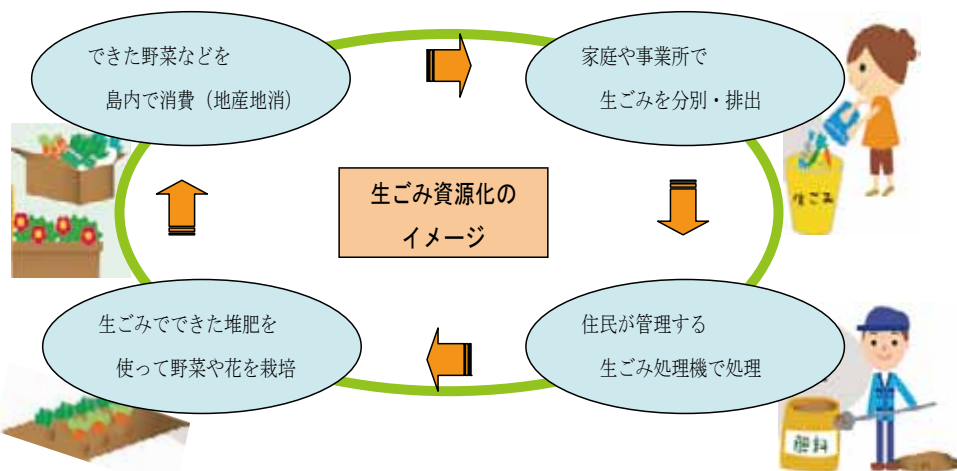


神島港付近



市の施設で処理するごみを搬出

このような中、廃棄物の収集運搬コストの削減や温室効果ガスの削減をめざし、神島で住民・自治会・行政等が連携して、地域（島内）における生ごみのリサイクルループ（地域循環）モデルの構築に向けた資源循環の仕組みを検討・推進しました。



バイオ式生ごみ処理機

処理方式	バイオ式(微生物による高温好気性発酵)
処理能力	200kg/日 (100kg/日 × 2台)
再資源化	島内の畑やプランターなどで、野菜や花の堆肥として利用

● 事業の成果

- ・住民へのアンケート調査の実施や生ごみ処理機の説明会の開催などで、住民自身が島内の生ごみの現状を把握し、ごみ減量の重要性を意識するきっかけとなりました。
- ・また、これまでの生ごみ処理機で発生していた残さ（炭化物）がなくなり、運搬コストの軽減を図ることができました。
- ・新しい生ごみ処理機で作られた堆肥は、畑作や園芸に活用され、島内のリサイクルループが構築されつつあります。

H21.9 島内住民との第1回会議

H21.9~10 島民アンケートの実施・集計

H22.1 生ごみ処理機の選定

H22.3 生ごみ処理機の設置
生ごみ分別講習会

導入の経過



住民説明会



オープニングセレモニー

● 今後の取組や課題



早朝からごみ出しをする住民

- ・今回は離島を対象として、生ごみの資源循環の構築に向けた取組を行いました。引き続きごみの減量化、資源化を図るため、引き続き、住民・自治会・行政等連携のもと、今回の検討事業の実績の検証や課題の把握、対策の検討を行うとともに、事業の成果の周知・啓発を進めます。
- ・資源循環型社会の構築をめざし、こうした離島での取組が市全域へ展開されるよう、市民やNPO等と連携を図りながら検討を進めます。

● 関係者の声

●自治会長 小久保真一郎さん

神島には農家が約100軒あります。個々の畑は小さいので、主にサツマイモやカボチャ、その他の野菜などを家庭用に育てています。生ごみ堆肥で作った野菜は、特に葉っぱもののできがいいと聞いています。

今までは肥料を購入していましたが、無料でもらえるようになったのは良かったです。

●ごみ集積所管理人 白石初枝さん



神島のごみ収集は、毎週月・水・金の朝5時30分から8時まで、島で1箇所の集積所に、住民が搬入しています。

新しい生ごみ堆肥化処理機は、前の炭化処理機と比べて毎日炭出しする必要がなく、2週間に1回できあがった堆肥を取り出しています。



生ごみを投入

前の機械と少し分別方法が変わり、住民の皆さんが新しい処理機にまだ不慣れなため、貝殻などの異物が混じらないよう、収集時間に立ち会うようにしています。処理したものを堆肥として利用するため、堆肥化できないものが入らないように気をつけています。



投入された生ごみ



堆肥をもらいにきた住民

新しい処理機が春から稼働したところなので、年間を通した堆肥の利用状況はまだ分かりませんが、春の植え付けの時期には畑の元肥として使用するため皆さんが持っていかれて、すぐになくなってしまいました。

今は農家で肥料を使う時期ではないので、堆肥が溜まってきています。秋の植え付けに備えて、今から少量ずつ運んでいる方もみえますが、ほとんどの方は野菜の植え替え時期である秋口にもraitたいとおっしゃっています。

●農家 前田又一さん・夏美さんご夫妻

これまでは主に鶏糞を肥料として利用していました。生ごみからの堆肥は、初めて使う肥料なので、試しに畑の一部でサツマイモを育てるのに使いました。堆肥を使うと栄養がよく、芋の蔓がとてもよく育ちます。この地域ではサツマイモの蔓を湯がいて食べているので、蔓を収穫しています。芋の方は、この堆肥は栄養がありすぎてうまく育たないため、使用量については試行錯誤しています。



堆肥を使用して育てた芋のつる



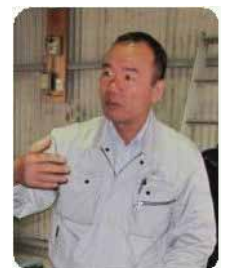
島の畑への登り口。ここから細い道を登る

栄養のある堆肥ですが、この島の畑は山の合間にあって、畑に行くまでかなり歩かなければいけないので、もう少し軽いといいと思います。

●鳥羽市役所 環境課 中村 孝課長

平成 21 年 3 月まで、炭化式生ごみ処理機が導入されていましたが、機械が老朽化したため新しい処理方法を検討することになりました。

炭化式の生ごみ処理機は維持管理が難しいことと、処理により発生した炭を取り出して保管し、島外に搬出する必要があったため、電気で稼働するバイオ式の生ごみ処理機の導入を検討しました。この生ごみ処理機でできる堆肥の使用方法について、島内の畑に使用し野菜を作って消費する資源循環を目指して、神島の町内会や婦人会の皆さんと協議を重ねました。



神島の人口は平成 22 年 10 月末現在で 187 世帯、442 名です。そのうち約 100 世帯の畑で野菜づくりをしています。生ごみからできた堆肥は希望者に無料で配布していますが、順番待ちになるくらい、非常に人気があります。また、島内でのごみ減量化や環境保全に対する意識も高まっています。

今後は、有機栽培の『神の野菜』（仮称）として、島の特産物づくりにも役立てていきたいと考えています。また、堆肥を使用した野菜づくりの学習会も検討しています。

🌿 四日市市「複合的なごみ減量・リサイクル施策検討事業」

🟢 事業の目的と概要

ごみ減量・リサイクルの推進をめざし、地域住民・関係団体・事業者等と連携し、レジ袋有料化や簡易包装の推進、容器包装等の自己回収の推進など、複合的なごみ減量施策を検討・推進する取組を推進しました。

🟢 事業の成果

- ・「ごみ減量リサイクル推進協議会」による議論を通して、取組へ参加した各主体の意識が高まり、レジ袋有料化を含むごみ減量・リサイクルの取組の推進に向けた共通認識を形成することができました。
- ・その結果、四日市市の「ごみ減量リサイクル推進店制度」開始時点で、スーパー等の14事業者50店舗（うちレジ袋有料化実施店舗は46店舗）、8商店街と「ごみ減量リサイクル推進店に関する協定」を締結し、事業者のごみ減量・リサイクルの取組の促進、市民に対するごみ減量への意識啓発を実施しました。
- ・平成22年10月20日には、第2期の協定を締結し、新たにおにぎり販売チェーン店17店舗のほか、スーパー1店舗、5商店街が取組に参加することになりました。
- ・生活圏が共通している朝日町、川越町と協働で制度設計に取り組み、同時に制度を開始することができました。
- ・制度スタート時のレジ袋の辞退率は80%を超え、現在は85%前後で、順調に推移しています。

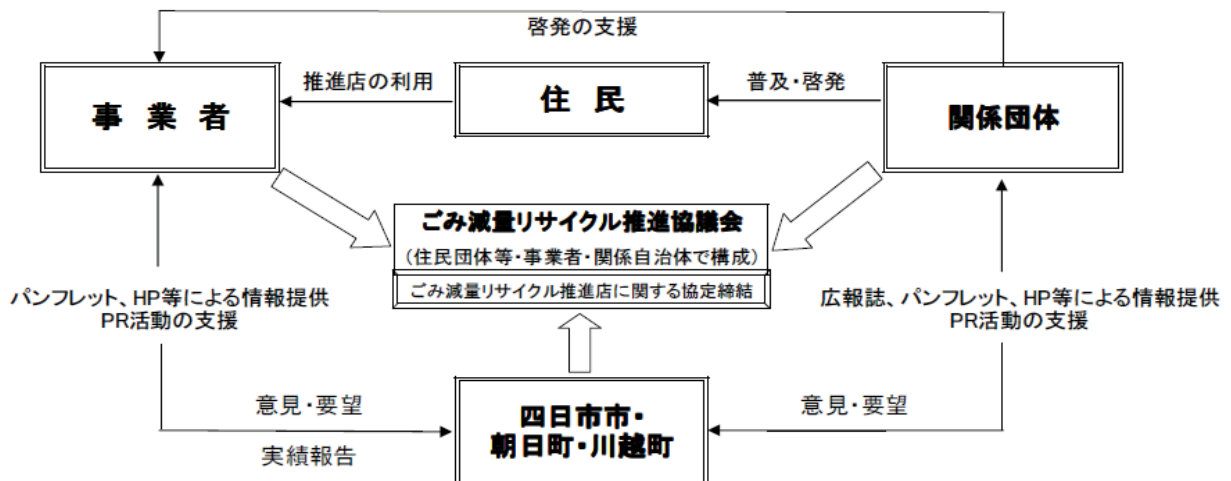


協議会の開催



事前啓発の実施

四日市市、朝日町、川越町の推進体制



🟢 今後の取組や課題



こにゆうどうくんを活用した啓発用エコバッグ

- ・レジ袋辞退率の維持・向上のため、市民に対して継続的な啓発活動を実施します。
- ・有料化未導入の他業態や市内各商店街に対し、制度への参加を働きかけるほか、レジ袋以外の包装資材の削減やリサイクルの推進を図るため、レジ袋の削減以外の基本項目や推奨項目の実施を進めます。
- ・レジ袋有料化に伴う「収益金」について、市民に納得いただける地域への還元の方法を検討します。

●関係者の声

●四日市商店会連合会 会長 渡邊 政幸さん

今回のモデル事業「四日市市ごみ減量リサイクル推進店制度」に取り組むことになったのは、四日市市生活環境課からお話をいただいたことがきっかけです。

スーパーなどの大型店舗も商店会に加入しているため、市から商店会への取組の説明があった時に、商店会に加入する中小店舗も市をあげて協力すべきではないかと思いました。そこで、商店会の会員への最初の説明会の際、「是非この取組を進めるべき」という会員の声もあって、連合会としても協力することになりました。

レジ袋辞退の呼びかけによるお客様へのサービスの低下より、CO₂削減の取組を行っていることをアピールしていくことで、社会的責任を果たしていると訴える方がメリットがあると思います。商店会の場合、お客様への声かけ等によりレジ袋削減に取り組めますので、どうしてもレジ袋が必要な人に渡さないということではありません。実際、お客様も環境への関心が高い方が多く、苦情はありませんでした。実は取組以前でもお客様の方からレジ袋はいらないといわれることもかなりありました。

今後の課題としては、この取組に参加してくれる事業者を増やしていくことです。商店連合会の事業計画にも、「全商店会にごみ減量リサイクル推進制度に参加してもらう」という目標を掲げています。実際には全商店会の参加は難しいと分かっていますが、目標は高く設定しています。できることから始めて、できるだけ多く取り組むことを目標に誠心誠意取組を進めていきたいと思っています。

問題点としては、この制度に参加している商店会の中でも、飲食店等のように取り組むことができる項目がない店舗があるため、飲食店が多い商店街が非参加になっていることです。普通の飲食店が取り組めることも検討していかなければと思います。

中小の商店街にとっては、様々な取組のある四日市方式なら参加しやすいのではないかと思いますので、各地で取組が進めばよいと思います。



ごみ減量キャラクター「リサちゃん」



制度のPR用掲示

協定締結基準	
次に掲げる1.基本項目の(1)~(4)を全て実施し、かつ2.推奨項目の(1)~(7)のうち1つ以上実施する事業者商店街	
1.基本項目	(1)レジ袋削減に関する取組の実施 (2)簡易包装の実施 (3)店舗から出るごみの分別及び再資源化の実施 (4)消費者に対するごみの分別及び再資源化の実施
2.推奨項目	(1)詰め替え商品等の販売促進 (2)エコマーク付き商品及びグリーンマーク付き商品の販売促進 (3)容器包装等の自己回収の推進 (4)販売品の修理サービスへの積極的な取組 (5)中古品の買取り及び販売の実施 (6)資源物拠点回収の拡充への協力 (7)その他、店の創意工夫によるごみ減量及びリサイクルの推進
協定締結基準項目	



渡邊会長と四日市市 伊藤さん

●四日市市環境部生活環境課 伊藤 慎さん

他の地域ではスーパーなどの大型店舗だけと協定を結ぶところが多かったのですが、四日市市では市のごみ収集で袋の指定をしておらず、ごみ袋としてレジ袋が使用できる状況だったため、取組としてレジ袋の有料化だけを進めるつもりはありませんでした。レジ袋の有料化だけがごみ減量の方策ではないので、様々な主体が、いろいろな取組の中で、できるところからやってもらえれば、と考え、商店街にも取組への参加をお願いしました。

●事業参加店舗の声

●ジャスコ四日市尾平店

「ごみ減量リサイクル推進店制度」の開始前から、店舗では環境への取組として、レジ袋の辞退は申し出によるポイント制を導入していたほか、会社全体の取組として、店頭にお客様向け、バックヤードに従業員向けの食品トレーやビン・缶・ペットボトルなどの資源物の回収ボックスを設置したり、年2回の街灯照明の消灯を実施したりしています。



制度PR用のぼり

レジ袋の有料化は、事前の啓発活動、店内外の表示など事前告知の効果で、今年の4月1日から制度が開始されても、混乱もなく進めることができました。マイバッグは8割程度のお客様が持参していらっしゃるようです。レジ袋の辞退率も、80%~85%くらいに達しています。



レジ袋購入用カード



資源物店頭回収ボックス

●スーパーサンシ生桑店

スーパーサンシでも、以前から資源物や、資源物を持ち込んだときのレジ袋を回収するボックスを設置しているほか、株式会社環境思考さん(※)の古紙回収ボックスも設置しています。制度の開始前は、レジ袋辞退のポイント制も実施していました。



(株)環境思考の古紙回収ボックス

事前の呼びかけもあって、制度の導入にあたって特に問題もなく、店舗で販売していたマイバスケットをご購入いただいたお客様もかなりいらっしゃいました。



制度PR用のぼりと外国語案内表示

家に持ち帰るとごみになるということで、買い物を済ませた後マイバッグやマイバスケットに商品を詰めるとき、トレーや包装を外して、分別していかれるお客さまも増えました。



資源物店頭回収ボックス

※ 株式会社環境思考の取組

エコとトクを両立させる新しい生活スタイルをめざし、使用済み天ぷら油、古紙、アルミ缶など、リサイクルステーションで市民の皆さんから回収したものに、提携スーパー等で交換できる「エコポイント」を付与する取組や、排出削減されたCO₂の「見える化」プロジェクトなどの企画提案型の事業を多く展開しています。

四日市市の取組の結果、三重県内の住民・事業者・行政の協定方式による三重県内レジ袋の有料化の取組状況は、県内29市町中28市町で実施されています。

実施率では97%、人口カバー率は98%に達しました。(平成22年8月1日現在)

🌿 名張市「福祉・地域づくりと一体となったごみ収集システム検討事業」

● 事業の目的と概要

名張市では、平成21年度に現行計画を検証し、次期の3ヶ年計画の「ごみゼロ社会を目指すアクションプログラム」を策定しました。ごみ収集の効率性・経済性・安全性の観点から、市内の収集方法をステーション方式に統一し、戸別収集からステーション収集への変更にあたり、ごみ収集を活用した、NPO等による高齢・障がい者世帯の見守り支援について検討・実施を進めました。

● 事業の成果

- ・名張市の「ごみゼロ社会を目指すアクションプログラム」が策定され、平成22年度から平成24年度までの3ヶ年においてさらなる減量をめざすという目標設定と実践行動計画が策定されました。
- ・また、今回のアクションプログラムの説明会を通して、市民に対しごみの減量に取り組む趣旨や内容を説明し、ごみ減量化に向けた啓発を実施しました。



名張市アクションプログラム



住民説明会

- ・高齢者の安否確認を兼ねたごみ出し支援事業による拠点型ステーションの取組により、桔梗が丘南地区では戸別収集で379箇所、桔梗が丘8番町では戸別収集で330箇所という広い範囲で、ボランティアが各々1箇所のステーションに集めたごみを、行政が収集することになりました。
- ・さらに、この取組により市内全てのごみ収集方式をステーション方式に統一することができ、収集の効率性や経済性等が向上しました。

● 今後の取組や課題

- ・家庭系ごみの有料化に伴うごみ減量の維持・促進、超高齢化社会を見据えたごみ出し支援策の拡充、生ごみ・草木類等の未利用廃棄物の資源化などの検討が必要です。



桔梗が丘南拠点ステーション

● 関係者の声

- 桔梗が丘南第3区区長 佐田勝彦さん



ごみの収集方式をステーション化するにあたり、桔梗が丘南第3区では、戸別収集からステーション収集に変わることによる住民への負担をできるだけ軽減するためと、もう一つは高齢者のみの世帯や障がい者世帯がごみを出しているかどうかで安否確認を行いながらごみを集めることを合わせNPOへ委託する方法を選択しました。



各戸前に出されたごみ



先行収集



軽トラックによるごみの回収

戸別収集のように各戸前に出されたごみを、歩いて先行するボランティアが数戸分程度まとめ、その後を軽トラックで集めるボランティアがついていく形です。収集する範囲が広いので朝8時30分から始めて11時30分頃までかかる場合があります。

ボランティアが安否確認を兼ねた戸別収集を行い、行政が大規模な拠点型ステーションでの効率的なごみ収集を行うことは、理想的な仕組みです。

しかし、実際に事業が始まってみると、ごみ収集は思った以上に重労働であること、有償ボランティアへの対価が低いこと、また従事する人が変わることによって、ごみの取り残しの発生や安否確認が不十分になることなどの課題も出てきました。

地域での住民同士の見守りを兼ねたごみの収集システム自体はとても良いものだと思いますが、継続して進めていくためには地域住民の理解と協力も必要です。



拠点ステーションに集められたごみ

●名張市役所 環境対策室 名和健治室長

ボランティアによる見守り支援を兼ねたごみ出し支援の事業を円滑に進めて行くには、ボランティアの確保、地区の総意、収集場所の確保の3つが必要です。

戸別収集からステーション収集に変わる地区には、円滑に進められるよう、できる範囲でフォローをしています。



✿平成21年度の取組（県として主に取り組んだこと）

●ごみゼロ推進セミナー

ごみゼロプラン推進の取組への参画を促進するとともに、県民や事業者自らの主体的なごみ減量化等の取組が活性化されていくきっかけづくりの場とするため、プランのPRや啓発、先進事例紹介や関連法制度等の研修を行うセミナーを開催しています。平成21年度は2回開催しました。

ごみゼロ県民セミナー ～♪ごみゼロソング♪ 表彰式と合唱披露も行います～

日時：平成21年11月21日（土）

場所：ホテルグリーンパーク津6階「伊勢の間」（津市） 参加者：126名

- ・「ごみゼロソング」表彰式、「ごみゼロソング」合唱披露
- ・講演：「お天気から考える地球環境と身近なエコ」
講師：三重テレビ気象キャスター 多森 成子 氏



「ごみゼロソング」表彰式



「ごみゼロソング」の初披露

【参加者の主なアンケート意見】

- ・「ごみゼロソング」はとても親しみやすく、楽しい曲で、ごみゼロプランの啓発にも良いと思いました。
- ・子どもの参加者が多く、講演内容が子ども向けだったのが良かったです。



多森 成子さんの講演

ごみゼロ事業者・県民セミナー

～環境意識の高まりを経営にどう取り入れていくか～

日時：平成22年2月15日（月）

場所：じばさん三重6階ホール（四日市市） 参加者：100名

- ・講演：「サステナブルな社会の創り方～21世紀の企業に求められる新しい役割～」
講師：一般社団法人LBA（ロハス・ビジネス・アライアンス）
共同代表 大和田 順子氏

・事例発表

発表者1：株式会社環境思考 代表取締役 大川 光司 氏

発表者2：らでいっしゅぼーや株式会社

CSR担当部長 松本 隆潮 氏

【参加者の主なアンケート意見】

- ・ロハスという発想が、古来日本人が行ってきたことを形を変えて見直したということに気付かされました。
- ・自分の社会貢献が、「見える化」によりわかるので、より環境への意識も高まってくると思います。
- ・環境を守るために値段の安さだけを求めてはいけないことを理解できました。



大和田 順子さんの講演



パネルディスカッション

●地域ごみゼロ推進交流会

地域のごみ減量化取組の活性化を目指し、桑名、四日市・鈴鹿、津、松阪、伊勢、伊賀、尾鷲・熊野の県内7地域で各農林（水産）商工事務所環境室が主催し、住民やNPO団体等のみなさんと、地域での取組発表・先進事例の紹介・意見交換等の情報交流や、見学会、講演会などを実施しました。

桑名 ごみゼロ交流会 in 石樽の里まつり

「石樽の里まつり」の実行委員会に参加することで、ごみゼロの視点（マイ箸・マイ箸・マイカップ持参等）を盛り込んだイベントを開催しました。

また、リサイクルマーククイズ、ぬり絵等のブースも出展しました。

- ・日時：平成21年11月1日（日）
- ・場所：いなべ市立石樽小学校（いなべ市）
- ・参加者：約800人（イベント全体の参加者数）



「マイ箸」「マイ椀」の啓発

四日市 三泗・鈴鹿地域ごみゼロ推進交流会「夏の鈴鹿川体験」



鈴鹿生活学校のマイ箸・マイ椀啓発

「夏の鈴鹿川体験」の実行委員会に参加することで、ごみゼロの視点（マイ箸・マイ箸・マイカップ持参等）を盛り込んだイベントを開催しました。また、リサイクルマーククイズ等のブースも出展しました。

- ・日時：平成21年8月23日（日）
- ・場所：鈴鹿川河川緑地 定五郎橋西（鈴鹿市）
- ・参加者：約760名（イベント全体の参加者数）

津 津地域ごみゼロ推進交流会

市内で古くからリサイクル業を営む事業場の現地見学を行った後、地元の企業や団体から環境への取組事例についての発表をしていただきました。

- ・日時：平成21年11月29日（日）
- ・場所：津市西部クリーンセンター（津市）
- ・現地見学：総合資源リサイクルセンター
株式会社サカモト（津市）
- ・参加者：約50名



事例発表



現地見学

松阪 松阪地域ごみゼロ推進交流会「3Rと容器包装を考える勉強会」



3Rに関する講演



展示

ごみの減量に欠かせない3Rについて一緒に学んでいただくために、講演・展示等により、3Rのいろいろな取組、リサイクルの現状を紹介する勉強会を開催しました。

- ・日時：平成21年10月31日（土）
- ・場所：松阪市産業振興センター
- ・参加者：約100名

伊勢 伊勢志摩地域ごみゼロ推進交流会・講演会

「海、山、川のつながり。ごみゼロの伊勢志摩をめざして。」をメインテーマとして、共通の目標に向かって地域一丸となって活動を盛り上げていくために、午前は各団体に成果発表を行っていただく交流会、午後は講演会とパネルディスカッションを開催しました。

- ・日時：平成22年2月13日（土）
- ・場所：ホテル戸田家（鳥羽市）
- ・参加者：午前（交流会）73名、午後（講演会）108名



ジャーナリスト崎田 裕子さんの講演



パネラーのみなさん

伊賀 生ごみから子どもの未来を考えるシンポジウム



パネルディスカッション

生ごみリサイクルを通して食の大切さを知ってもらうため、地球のためはもちろん、生ごみを出さない食事のしかたや生ごみを生かした野菜づくりで、子どもたちの心と体を元気にするお話をさせていただきました。

- ・日時：平成22年1月31日（日）
- ・場所：名張市役所
- ・参加者：130名

尾鷲・熊野 ごみゼロ交流会 in 尾鷲・熊野



NPO法人循環社会研究所
傍島 潤子さんの講演

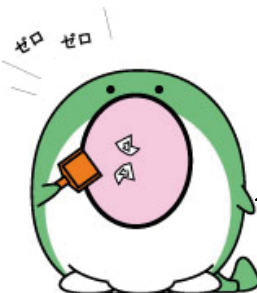
交流会では、主に生ごみ処理についての講演と、事例発表を行っていただきました。

参加者には、特にダンボール・コンポストが好評でした。

- ・日時：平成21年12月6日（日）
- ・場所：三重県尾鷲庁舎
- ・参加者：89名



熱心に耳を傾ける参加者



県内各地でいろいろな取組を工夫して、たくさんの人に協力してもらって、交流会ができたゼロ！

おかげで、多くの人に交流会に参加していただけたゼロ。

●とどけ！ こども会議

三重県こども局では、子どもの育ちを応援する「みえのこども応援プロジェクト」を推進しています。

その取組の一つとして開催された、平成21年8月3日（月）と8月7日（金）の「こども会議」では、『ゼロ吉と学ぶ「ごみゼロ社会」～わたしたちにできること～』をテーマに、子どもたちが真剣に意見を出し合ってくれました。

とどけ！ こども会議「7人の環境侍」

- ・日時：平成21年8月3日（月）
- ・場所：三重県庁会議室（津市）

中学生4人、高校生3人の友だち同士のグループが、「ごみゼロ」について話し合うために集まりました。

県のごみゼロ社会の実現に向けた取組について、ごみゼロ推進室から説明の後、自分たちにできることを話し合ってくれました。



真剣な討議



ゼロ吉と記念撮影

とどけ！ こども会議「西が丘スポーツ少年団」

- ・日時：平成21年8月7日（金）
- ・場所：緑の街集会所（津市）



「ごみゼロ社会」について学ぶ

西が丘スポーツ少年団の19人の子どもたちの疑問から、こども会議が開催されることになりました。

まず、DVD「みんなでめざそう“ごみゼロ社会”」や「ごみゼロ3択クイズ」でゼロ吉と一緒にごみゼロの取組について学んだあと、グループに分かれて、ごみを減らすためのアイデアを話し合ってくれました。

子どもたちは、活発に意見を出し合い、「残さず食べる」「余分なものを買わない」「生ごみはできるだけ水分を取ってから、ごみとして出す」など、たくさんのアイデアを発表してくれました。



グループ討議



意見発表



ゼロ吉と記念撮影

●地域ごみゼロ・3R(※)啓発推進員

平成21年7月から平成22年7月まで、「地域ごみゼロ・3R啓発推進員」を新規に任用し、「ごみゼロ社会実現プラン」に関するごみ減量化啓発や、県内のごみ減量等の環境活動を行っているNPO等の団体の情報収集等を実施しました。

この取組により、のべ800団体以上を訪問し、新たに24団体の情報をホームページに掲載したほか、活動団体同士の交流や、県や市町における事業やイベントへの参加に繋がるなどの成果が得られました。

●北勢地域担当 田中 峻さん

地域ごみゼロ・3R 啓発推進員として、最初は本当に右も左もわからない状態からのスタートでしたので、正直戸惑いの方が大きかったです。

NPO・学校・事業者など各団体と行政が連携するには、課題はまだ多く、団体同士の交流がもっと活発になる必要があるように思います。そのような点においても、各団体を訪問させていただく中で、ブースの出展や、三重県ごみゼロキャラクター「ゼロ吉」の着ぐるみを使った啓発を通じて、色々なイベントに参加させていただくことができたことは、地域の方と触れ合う貴重な経験であり、団体と行政との交流を深めることができたと思います。また、団体を訪問させていただく中で知り合った、四日市大学の学生たちと平成22年度地域ごみゼロ推進交流会「ごみゼロウォーク・エコフェア in 四日市大学」を開催することができ、学生たちと四日市大学周辺の住民、出展団体、行政が交流できたことで、今後のごみ減量化など環境への取り組みの発展につながればと思います。



●中勢地域担当 川合 勝さん



3R啓発活動を始めて意外に思ったのは、環境に関するNPO等の中で、山・海・川の自然環境に関する団体は多かったのですが、生活の中でのごみ減量を中心に活動を行う団体が少なかったことでした。

団体だけでなく企業や学校も訪問し、環境面での取組を聴き取り、取組を進めてもらうようにお話をしている中で、いろいろな問題点にもぶつかりました。

しかし、私たちが身近なところから、できるところから取り組んでいくことが、企業を動かしていくことにも繋がると思います。

小売店、特に大型スーパーにおいて、食品トレーの店頭回収などに取り組んでいただいているところですが、例えば買う側の消費者が必要限度の包装のあり方を考え、自発的に過剰包装を断るなど、さらなる3Rの取組が広がってほしいです。

3R啓発推進員としての活動の一番の喜びは、活動を通して人との交わり、関わりを学べたことが大きかったことです。今後は、地元での3R活動に、これまで自分の身についた経験を役立てていきたいと思っています。

●南勢地域担当 中野 啓二さん

3R啓発推進員の活動でいろいろな方のお話を聞いていて、一生懸命活動されている方々と同じようにはできなくても、県民一人ひとりが自分にあった活動をしていけばいいと感じました。

訪問先で特に感じたことは、生ごみ堆肥化について、小学校とNPOが長期的に連携して行っている取組がありましたが、その中で子どもたちが多くの体験を通して環境のことを深く実感していたので、そのような取組が広がってほしいと思いました。

活動の中で堆肥化や風呂敷活用法など、いろいろなことを学びました。学んだ知識や技術などは、今後地域で活用していきたいと思います。



●東紀州地域担当 橋本 隆晴さん

地域によって取り組み方が違うことや、少人数ながら積極的に活動している企業、NPO 団体等が多い地域と、そうでない地域との格差が大きいと感じました。そのため、さらなる啓発支援を行う必要があると思います。例えばモデル地区を作って、取組の方向性を定めていくこともひとつの方法だと思っています。



高齢化社会が進み、活動できる若い世代の人が少なくなっている現状にどう対処し、ごみ減量、排出抑制を行っていくか。そのことをみんなで考えていくこと、また、子どもたちが自分の考えで理解し行動できるよう手助けしていくことが重要です。そのためには現在の大人が、10年後、20年後を見据えた下地を作ってあげることが大事だと思います。

私が今までやってきたことは最初の一步であり、これから先が肝心で、続けていくことが大事だと思います。

※ **3R** リデュース：発生抑制、リユース：再使用、リサイクル：再生利用の、3つの頭文字「R」をとって、「3R」といいます。

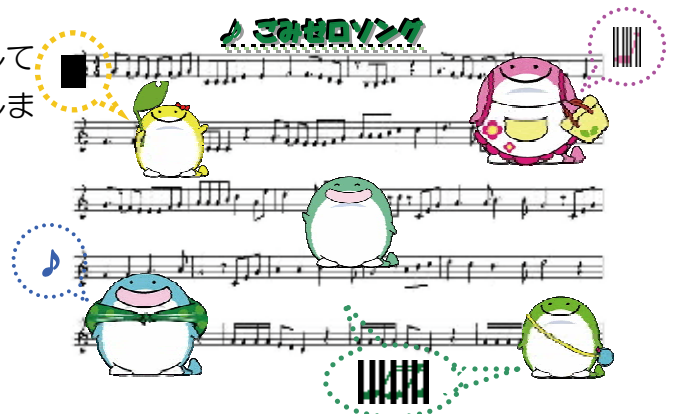
●ごみゼロソング

「ごみゼロ社会」づくりを県民の皆さんとともに進めるために、平成21年度に「ごみゼロソング」を制作しました。

「ごみゼロソング」の歌詞は、広く一般から公募し、194名の方からご応募いただいた202点の作品の中から、最優秀作品1点を選定しました。

選ばれた歌詞にふさわしい、明るく楽しい曲を作曲していただき、平成21年度ごみゼロ県民セミナーで発表しました。

作詞者 藤島 幸さん（四日市市在住）
作曲者 家城 和子さん（津市在住：音楽教室講師）
歌手 山本 航大（やまもと・こうだい）さん
山本 宙（やまもと・そら）さん
吉田 千夏（よしだ・ちなつ）さん



🌱 ゼロ吉くんレポート

🌱 おごろの会（大紀町）

おごろの会は、9名の会員が生ごみの堆肥化とリサイクル手芸を通してごみ減量のPRを行っているんだ。いつも和気あいあいと楽しく活動しているよ。

「おごろ」というのは、この地域の方言で「もぐら」のことで、土とふれあうことからこの名前をつけたんだって。



手作りの展示用パネル



堆肥の切り返し



「おごろ」

代表者 大瀬 佐和子さん

私たちは最初、リサイクル手芸の活動グループでしたが、平成18年に香肌奥伊勢資源化プラザを見学したときに、ごみの量の多さや処理費用の高額さを知って、何かをしなければと思い、松阪市飯南支所の堆肥化の取組を参考に、生ごみの堆肥化を始めました。

リサイクル手芸は現在も続けています。できあがった手芸品は、香肌奥伊勢資源化プラザのリサイクルフェアや地元の藤まつりなどで販売しています。

イベントに出店するときには生ごみ堆肥化の作業等を手作りのパネルで展示したり、手芸品を買っていただいた方に堆肥を試供品として渡したりして、生ごみ堆肥化のPRも行っています。



リサイクル手芸品の数々



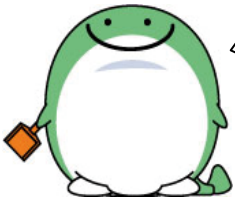
おごろの会メンバーの皆さん



できあがった堆肥は、メンバー宅の畑なんかに使われているゼロ♪



🌿 おもちゃの病院ながしま（桑名市）



おもちゃの病院ながしまの丸山さんは、毎月7ヶ所で病院を開いて、年に300個以上のおもちゃを修理してるんだ。
おもちゃのリユースにも取り組んでいるんだよ。



「おもちゃの病院ながしま」HPアドレス：<http://www.zb.ztv.ne.jp/tsu-omocha/nagashima/index.htm>

代表 丸山 善頌さん

おもちゃドクターの活動を始めて13年目になります。

始めたきっかけは、定年5年前に読んだ新聞記事で、東京のおもちゃ病院の関係者がおもちゃドクターの参加の呼びかけをしていたこと。そこでさっそく東京まで話を聞きに行きました（笑）。

いろいろな見方はあると思うけど、おもちゃの寿命が長くなるから、ごみ減量にはなっているのかな。



2010/7/15 現在



協力しながら修理

現在県内には、おもちゃ病院が9箇所あって、東員町、いなべ市や名張市でも新しくできる動きがあります。全ての市町におもちゃ病院ができてほしいですね。

あと、おもちゃ病院の広報がなかなか十分ではなくて、近くに病院があることを知らずに遠くの病院にみえる人がいらっしやるので、十分に活動を知らせていきたいと思います。



丸山さん特製修理道具いろいろ



おもちゃが壊れたら、お近くの病院を訪ねてほしいゼロ♪

団体名(掲載順・北部より)	活動拠点	団体等の紹介
おもちゃの病院ながしま	桑名市	代表者：丸山 善頌 (日本おもちゃ病院協会会員) TEL：0594-42-3575
川越町おもちゃ診療所	川越町	代表者：山下 光男 連絡先：川越町社会福祉協議会 TEL：059-365-0024
菰野町「おもちゃ診療所」	菰野町	代表者：加藤 健一郎 (日本おもちゃ病院協会会員) 連絡先：菰野社協 ボランティアセンター TEL：059-394-1294
四日市おもちゃ病院	四日市市	代表者：藤山 廣 (日本おもちゃ病院協会会員) TEL：059-351-6670
おもちゃ病院鈴鹿「トイなおす」	鈴鹿市	代表者：藤野 洋士 TEL：059-386-1808
亀山おもちゃの病院	亀山市	代表者：植田 恵昭 TEL：0595-82-5667
津おもちゃ診療所	津市	代表者：笹山 泰平 TEL：059-230-0827
松阪おもちゃの病院	松阪市	代表者：竹林 敏夫 連絡先：松阪市ボランティアセンター内 TEL：0598-23-2941
紀宝おもちゃの病院 ダンボ	紀宝町	代表者：西脇 正和 連絡先：紀宝町社会福祉協議会内 TEL：0735-32-0957

「三重・おもちゃの病院連絡会」HPアドレス：

<http://www.zb.ztv.ne.jp/tsu-omocha/renrakukai/index.htm>

特定非営利活動法人 三重スローライフ協会（松阪市）



おかえりコインと
おかえり返却口



特定非営利活動法人三重スローライフ協会は、「おかえりコイン」の取組で、平成21年度のみえ環境活動賞を受賞したんだ。
新しい活動にも取り組んでいるよ。

三重スローライフ協会HPアドレス：
<http://www.okaeri.info/>

理事長 大原 興太郎さん

主に松阪の農業公園ベルファームで活動しています。
みえ環境活動賞を受賞した「おかえりコイン」の取組のほか、ベルファーム内の売店でのレジ袋有料化も順調で、近隣の小学校やベルファームでの緑育活動の資金になっています。



BDF車



今は、BDF（バイオディーゼル燃料）の普及にも取り組んでいます。伊賀市の研究拠点で市と三重大がバイオマス利活用高度化事業を実施していますが、そこに参画する形で、ベルファームでも、登録会員の家庭から排出される廃食油を対象に持込分を回収しています。

レジ袋の有料化の財源を利用して緑育活動の参加者に種をまいてもらったひまわり畑



回収された廃食油

BDF 発電機はイベントで、照明や音響に使用しています。



BDF 発電機



修理に出すより大量生産の市販品を買い直す方が安いため、身近に修理を手がける店が少なくなりました。

これからは、リペア（修理）のシステムを再構築し、ものを大事に直して使うという文化を見直していくことが大切です。

ベルファーム内でも包丁の「研ぎ屋」などを実施してもらっています。

《用語解説》

おかえりコインとは？

たとえば、バイキングレストランで食事の後片付けを自分でする、宿泊施設にマイハブラシを持って行くというような、少しの手間ひまでなくなる無駄な部分を”おかえりコイン”に変えてスローライフ運動の基金にしようという取組です。

食事の後片付けにかかる経費や、使い捨てハブラシにかかる経費などをコインに変えて、地域の環境活動・食農教育・農村産業の活性化に使う、地域に帰ってくることから”おかえりコイン”と名付けられました。

<http://www.okaeri.info/coin.html>

みえ環境活動賞とは？

みえ環境活動賞は、三重県の環境を良くするための様々な活動を称え、県民の皆様に広く知っていただくとともに、活動がますます素晴らしいものになるように応援していくため、それらの活動に取り組む個人又は団体を表彰する制度です。

生活に身近なところでの活動から、森林、自然、地球規模の環境保全活動まで、幅広く候補者を募り、県民の皆様の環境保全に関する自主的な取り組みを促進することを目的としています。

<http://www.eco.pref.mie.jp/earth/100100/katsudosho/>

三重県ごみゼロキャラクター「ゼロ吉」



僕は、三重の豊かな森から生まれた森の妖精。
人間で言うと小学4年生くらいかな。
僕が大人になった時も自然豊かな三重県であって欲しいから、
資源を大切に暮らしているよ。
人間がたくさん出すごみを食べたので、
今は、ちょっと太めな体だけど、大人になった頃には、
ダイエットしてスリムになるぞ～。

● ゼロ吉着ぐるみ「エアゼロ吉」の活躍

平成21年4月18日(土)の県民の日にデビューして以来、1年間で貸出も含めて79回のイベントに参加し、たくさんの方々と交流しました。



みんなでめざそう “ごみゼロ社会”

風呂敷っていろいろ使えて便利だよ♪

マイバッグを持ってお買い物♪

お出かけにはマイボトル♪

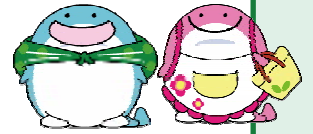


ゼロ美 ゼロ助 ゼロママ ゼロパパ ゼロ吉

ごみゼロソング

作詞/藤島 幸 作曲/家城 和子
うた/山本 航大 コーラス/山本 宙 吉田千夏
プロデュース/エフエムよっかいち株式会社

- ① 捨てる前に かんがえる 3R (スリーアール) だね ゼロパパ【ゼロパパ】
レジぶくろは いりません マイバッグ自慢の ゼロママ【ゼロママ】
ごみは正しく わけましょう 分別できるよ ゼロ善くん【ゼロ善くん】
きっと明日は 変わるはず 青い空が よろこぶよ
ぼくも がんばろう みんなで めざそう わたしも がんばろう みんなで めざそう
ごみゼロ社会 (×4回)



- ② 水筒もって でかけるよ マイボトルの ゼロ助くん【ゼロ助くん】
ごはんは残さず 食べます すききらいないよ ゼロ美ちゃん【ゼロ美ちゃん】
物は大事に 使います ゼロ善ファミリー
きっと明日は たのしいよ 森の木々が ささやくよ
ぼくも がんばろう わたしも がんばろう みんなで めざそう ごみゼロ社会
ぼくも がんばろう みんなで めざそう わたしも がんばろう みんなで めざそう
ごみゼロ社会 (×4回)



この「ごみゼロソング」は、「三重県ごみゼロホームページ」で聴けるゼロ♪

平成22年(2010年)度版

ごみゼロレポート

～みんなでめざそう“ごみゼロ社会”～
平成23年1月

三重県環境森林部ごみゼロ推進室

〒514-8570 三重県津市広明町13

TEL: 059-224-3126

FAX: 059-229-1016

Mail: gomizero@pref.mie.jp

三重県ごみゼロ

検索

三重県ごみゼロホームページ <http://www.eco.pref.mie.jp/gomizero>

- ・「ゼロ吉」着ぐるみのご借用
- ・「ゼロ吉」ファミリーのキャラクターご使用
- ・ごみゼロメールマガジンの配信登録は、こちらからどうぞ!

表紙写真(ゼロ吉とともに登場したキャラクター)

右上: 津市PRキャラクター シロモチくん

中央: 右奥から

四日市市マスコットキャラクター こにゅうどうくん

松阪市マスコットキャラクター ちゃちゃも

一身田商工振興会イメージキャラクター しん坊

(社)伊賀青年会議所キャラクター いが☆グリオ

左下: 三重県警マスコットキャラクター ミーボくん